

第162回

中央委員会決定

2014年9月20、21日

新日本婦人の会

第162回

中央委員会決定

2014年9月20、21日

新日本婦人の会

2015年へー平和、暮らし、ジェンター平等、核兵器廃絶を！
女性の願いで安倍政権をノックアウト、新婦人いま大きく

一、憲法を守れ！ 歴史的な情勢と女性たち…………… 3
 〈一日も早く安倍内閣退陣を〉…………… 3
 〈日本も世界も平和で公正な社会へ〉…………… 5
二、全国が力あわせて、安倍暴走ストップ！…………… 5
 〈今後大切にしたいこと〉…………… 6
 (1) 「戦争する国」づくりストップ！ 核兵器禁止条約の交渉を…………… 7
 (2) 沖縄県知事選挙といっせいで地方選挙、だれもが輝く持続可能な地域づくりを…………… 7
 (3) 各分野のとりくみをさらに…………… 8
三、次世代との並走、本格的に…………… 9
四、平和と要求実現の新婦人 今こそ仲間づくりの飛躍を…………… 10
 (1) 新チラシで外へ、平和の仲間づくりをみんなで…………… 10
 (2) へ生きいき大きな班へ 5つのポイントで引き続き、どの班も元気に…………… 11
 (3) しんぶんを力に委員会活動の前進を…………… 11
※新婦人と農民連が応援する産直運動 あらたな共同目標(案)…………… 12

特別決議

沖縄県知事選での翁長雄志おながたけしさんの勝利で、新基地建設中止、安倍政権ノックアウト！…………… 14
暮らしと平和をこわす消費税率10%への増税を中止させましょう！…………… 16

討論のまとめ

事務局長 米山 淳子…………… 18

新日本婦人の会は9月20・21日、第162回中央委員会を開き、21日、次の決定を採択しました。

2015年へー平和、暮らし、ジェンダー平等、核兵器廃絶を！
女性の願いで安倍政権をノックアウト、新婦人いま大きく

第162回中央委員会決定

一、憲法を守れ！ 歴史的な情勢と女性たち

新婦人はこの間、「戦争はぜったいダメ」と会創立の原点をかけて立ちあがり、平和の世論をリードする力となってきました。「私の願い」での発信・行動がまわりを励まし、仲間を迎え、大きな新婦人になって2020年を迎えようと意欲的な行動が始まっています。

〈一日も早く安倍内閣退陣を〉

広島など全国各地の記録的豪雨災害に日本中で「いつわが町が…」と不安が広がり、東日本大震災復興の遅れも深刻です。被災者支援、防災、異常気象対策を急いでとの声が高まっています。暮らしと平和をこわす暴走に立ち向かう女性・国民が、安倍政権を追いつめています。

沖縄・辺野古新基地建設中止へ名護市議選で市長与党が過半数を獲得し、「今度は新知事誕生を」と保守・革新をこえて県民ぐるみのたたかいに発展しています。官邸前や各地の運動が安倍政権打倒デモへと合流し、原発差し止めや賠償、JALの違法認定など画期的な判決も相次ぎました。

国民の批判をかわそうと5人の女性閣僚を起用した第2次安倍改造内閣は、ジェンダー攻撃と侵略戦争美化の急先鋒をそろえ、原発再稼働担当に女性をあてるなど、「女性」の利用に批判の声があがっています。

安倍政権は、集団的自衛権行使容認の閣議決定から年内の日米軍事ガイドライン見直しや秘密保護法の施行、新基地建設の工事強行、オスプレイの全国展開、過去最大の軍事費、日本軍「慰安婦」問題の否定、国いいなりの教育やメディアへの圧力、学校や地域で自衛隊の浸透作戦、9条守れの俳句の公民館だより掲載拒否をはじめ自主規制の動きなど、「戦争する国」づくりを急ピッチですめています。

収入は増えず、消費税8%と高物価が家計を苦しめ、景気悪化が明らかなのに、来年10月からの消費税10%への税率引き上げをねらっています。一方で法人税減税を掲げ、大企業幹部を引き連れた外遊で武器や原発、大型事業を売り込むさまは異様です。生涯派遣・残業代ゼロなどブラックな働き方を広げる労働法制改悪、生産者米価の暴落のうえ農業を営利企業に解禁する「農政改革」、TPP秘密交渉、巨大開発やカジノ導入、選挙目当ての「地方創生」など、悪政のオンパレードです。

国民多数が反対しているのに大暴走する背景には、財界・アメリカいなり、さらに安倍首相本人の軍国主義復活への異常な執念があります。

〈日本も世界も平和で公正な社会へ〉

アメリカのイラクやシリアへの軍事攻撃、ロシアのウクライナ侵攻と衝突、イスラエルによるガザ住民攻撃など、戦争への不安が高まるなか、「武力より対話を」「武器より暮らしを」の願いが強まっています。核兵器の非人道性から廃絶を求める動きが広がり、NPT（核不拡散条約）再検討会議が開かれる被爆70年の2015年を核兵器廃絶への決定的な転機にと、国連、各国政府、NGOが力をあわせています。地球温暖化が世界各地に大災害をもたらすもと、CO2排出削減に逆行する日本政府の責任は重大です。

2015年は、第4回世界女性会議（北京）から20年、日本では女性参政権獲得70年、第4次男女共同参画基本計画策定の年です。

歴史の転換期にある今こそ、女性たちが力をあわせ、平和、暮らし、ジェンダー平等、核兵器廃絶へと流れを変えましょう。

二、全国が力あわせて、安倍暴走ストップ！

紙芝居やジャンボリーフ（ストップ！「戦争する国」づくり）の学習や宣伝、憲法カフェが広がり、メディアも報道し、何かしたいと願う女性たちを仲間に迎えました。新チラシ「憲法こわして『海外で戦争する国』に!」の活用も始まっています。名護新基地建設反対の7紙への意見広告運動、市議選への応援にとりくみました。核兵器全面禁止を求める国際署名は10

0万を突破、原爆展は1000カ所となり、自治体や商店、保育園などへの申し入れが始まっています。

消費税8%増税の実感を班や小組でしゃべりし、首相や地元議員へ「私は言いたい！」FAXを発信、怒りの4・1行動、毎月24日、7月宣伝週間で署名・シール投票で対話を広げました。まわりに知らせて医療・介護総合改悪法の学習会を各地で開き、厚労委員や地元議員に要請、高齢者のしゃべり場や要求に応えた活動もすすみました。つくって食べて学んでの交流や農業体験が多彩にとりくまれ、産直運動の参加者も増え、全国会議を力に意欲的な活動が始まっています。各地でTPP反対の共同もすすみました。「あなたの、家族の職場の『ブラック度』チェック」、シンポジウムや学習会、署名にとりくみ、労働者派遣法改悪案を廃案に追い込みました。NHKやメディアへ「こんなひどい番組、こんなよい番組」の声を届ける活動、東京都議会での性差別暴言問題に機敏に行動し、「慰安婦」問題の学習会やツアーなどにもとりくみました。豪雨災害の救援、福島支援や仮設住宅訪問、各地で防災ウォッチングもおこなわれています。原発ゼロ・再稼働反対の一点で共同が広がっています。リーフ「教育再生って？」の学習、学力テストをはじめ教育委員会との懇談、教科書展示会での意見提出にとりくみました。高校・大学の教育費アンケートには異常な高学費への怒りがあふれています。

〈今後大切にしたいこと〉

— つぶやきや「私の願い」をアンケートや公園・学校・地域ウォッチングで要求としてまとめ、自治体との懇談や地方選挙で実現させましよう。

— 新チラシを大きく活用し、あらゆる運動で「私は言いたい！」と地元議員などに届け、女性・

市民と一緒に外へ外へと行動を広げ、たくさんの仲間を迎えましょう。

―「軍事費削って〜秋の行動」10・1スタート日行動を全国いっせいにとりくみ、来年度予算の抜本的な見直しを求める署名を大きく積み上げましょう。

（1）「戦争する国」づくりストップ！核兵器禁止条約の交渉を

○集団的自衛権の閣議決定撤回、その立法化や新基地建設、オスプレイ配備・訓練を許さないため、新チラシを班や小組、宣伝や訪問での対話、仲間づくりに大いに活用しましょう。

○「戦争する国」づくりと一体の自衛隊・米軍による子どもや教育、市民生活、防災への介入をやめさせる運動にとりくみましょう。

○NPT・ニューヨーク行動へ、若い世代をはじめ多くの代表派遣と国際署名200万目標を必ず達成しましょう。世界大会特別資料であらゆる団体に申し入れ、国際共同行動（核兵器廃絶デー9/26、軍縮週間10/24、ウィーン会議12/8・9）を飛躍の節にしましょう。

○原爆展の開催、核保有国・同盟国の団体へ被爆組写真と『木の葉のように焼かれて』（英語版）を贈る運動を強めましょう。

（2）沖縄県知事選挙といっせいで地方選挙、だれもが輝く持続可能な地域づくりを

○沖縄県知事選挙勝利へ全国から支援しましょう。来春のいっせいで地方選挙に向け、紙芝居などで暮らしと自治体についておしゃべりし、「私が選ぶ！」選挙へとつないでいきましょう。

○子育ても老後も安心して住み続けられる地域づくりへ共同を広げましょう。「農政改革」と TPPを許さず、食と農、雇用、地域を守り、再生可能エネルギーも普及させましょう。

(3) 各分野のとりくみをさらに

○「消費税10%アリえない！」とイエローキャンペーン（各界連）で中止を迫る署名・宣伝行動にとりくみ、来年40年となる『新婦人家計簿』で実態を発信し、暮らしを守る世論を高めましょう。

○医療や介護など社会保障の切り捨てを許さない学習を班や支部、しゃべり場ですすめ、現場の実態や要望をもって自治体との懇談・要請をおこないましょう。

○新婦人と農民連が応援する産直運動の新しい「共同目標」（案）※を力に、生産者との交流、つくって食べて学んで楽しく豊かな活動を広げ、産直運動に参加する会員を増やしましょう。

○ブラック度チェックでおしゃべりし、派遣法など労働法制改悪反対署名にとりくみましょう。高校で働く権利を学ぶ機会をと都道府県などに要請しましょう。

○身近な「これって差別？」のおしゃべりや学習を班や小組で広げ、「私が感じた差別―全女性地方議員アンケート」にとりくみます。「慰安婦」問題の解決へ学習と行動をさらに広げましょう。

○各地の豪雨災害救援と大震災復興支援、ハザードマップや地域の地盤チェック、防災の要求運動やわが家の備えを強めましょう。原発再稼働を許さず、地球温暖化防止へ新しい署名を始めます。

○教育費の無償や負担軽減を求める運動を強めましょう。批准20年の子どもの権利条約を学び、安倍「教育再生」や教科書を話題におしゃべり、教育委員会との懇談・要請をすすめましょう。

三、次世代との並走、本格的に

「いま知らなくちゃ！ 行動しなくちゃ！」と、憲法カフェ、署名デビュー、戦跡めぐり、被爆体験を聞く会など多彩に、また、小学校にエアコン、図書館内へのベビーカー設置など要求運動にとりくみ、仲間も迎えました。全国会議で交流し、お互いの決意やがんばりに元氣と勇氣をもらい、原水爆禁止世界大会に若い世代が多数参加、NPT・ニューヨーク行動への代表派遣も広がっています。各地で若い世代を委員会に迎え、若い世代がレポートする「新婦人通信」が学ばれ、全国で220の若い世代のチームや柔軟な集まりが前進しています。

○集まってつながって、まわりの女性たちを誘って平和・憲法カフェ、ジェンダー、生き方などを学んでおしゃべり、夕食付きなど工夫して働く若い世代の集まりを、さらに広げましょう。

○子ども・子育て新制度について学習し、安心・安全な保育・学童保育の拡充を自治体に求めましょう。

○赤ちゃん・親子リズム小組で、しんぶんタイムでミニ学習、柔軟な集まりをもって「あゆみDVD」（8分版）・新婦人ミニ講座を開き、子ども医療費などの要求運動にさらにとりくみ、新婦人を体感しましょう。新たな小組や仲間づくりをすすめ、支部・県でリズムスタッ

フ、サポーター講座や交流会を開き、学び合いましょう。

○委員会でも、自分のできることでがんばり、「私の願い」を大切に活動しましょう。先輩会員の支えと若い世代の発想を生かして並走しましょう。

四、平和と要求実現の新婦人 今こそ仲間づくりの飛躍を

「戦争は許さない」と平和のとりくみで会員・読者を迎えています。「班、会員のみなさんへの手紙」を読み、宣伝に出て元気になり、〈生きいき大きな班へ 5つのポイント〉(161中委決定)でできるところから「班の一步前進」が各地で生まれました。第11回組織基本調査(2014年1月)でも、班会の開催や班委員会の確立がすすみ、要求別小組数が増え、班会や小組でのしんぶんタイムも広がるなど、班活動が前進しています。同時に、職場班など班数の減少、若い世代、働く女性の分野での特別な努力の必要性も明らかになりました。この間、支部ごとに新婦人学校を開き、歴史と役割、班が基礎と学んだことが前進の力となった貴重な経験が生まれ、中央主催の機関紙や産直運動・財政などの会議を受けて活動が強められました。

(1) 新チラシで外へ、平和の仲間づくりをみんなで

○新チラシと新婦人しんぶんを、ご近所や知人・友人に手渡し、「あなたも平和守る仲間にとみんなで仲間をふやしましょう。宣伝や署名、訪問行動、集会、学習会などあらゆる場で新チラシを活用し、仲間づくりをすすみましょう。

(2) 〈生きいき大きな班へ 5つのポイント〉で引き続き、どの班も元気に

始まったばかりの〈5つのポイント〉に学んで班活動をさらにすすめましょう。

- ① 班会—会員みんなに知らせて毎月班会、誕生会や歓迎会など工夫して
- ② 要求—おしゃべり・つぶやき・願いを運動や小組に、平和の活動も大切に
- ③ 新婦人しんぶん—読んで、勧めて、みんなで配達集金
- ④ 仲間づくり—いつも運動やつながりで、チラシで知らせ仲間に、目標持って、意識して若い世代を
- ⑤ 班運営—みんなで役割分担、班委員会で相談、班ニュースも発行

(3) しんぶんを力に委員会活動の前進を

「2020年までに大きな新婦人に」と呼びかけた今年、10・19創立52年記念日を節に、どの県・支部・班も第26回全国大会時現勢を突破し、必ず前進しましょう。

○ 全班会に、平和と要求実現の仲間づくりを正面から訴え、会員・読者を迎えましょう。大量に配布するチラシには、憲法カフェや学習会を新小組とともに載せ、合同体験会でも平和やくらしのコーナー・しゃべり場を設け、広く知らせましょう。

○ しんぶん中心の活動を強めます。新会員歓迎会や班会・小組、体験会でも「あゆみDVD」(8分版)を活用しましょう。

○職場班の維持と新班づくり、働く若い世代が参加でき、働き方の違いを越えた活動を探索しましょう。

○どの委員会もすんだ経験を班活動交流会やブロック会議で学び合いましょう。支部ごとに新婦人学校を開きましょう。女性有権者比率、1ヶタ班を2ヶタに、小学校区に班づくり、新しい班・支部づくり、若い世代を○割に、チームづくりなど計画を持ち、とりくみましよう。

※ **新婦人と農民連が応援する産直運動** あらたな共同目標（案）

1、生産者は安全を最優先して鮮度のよいおいしい農畜水産物を届け、消費者は食べることで、日本の食料と農業、食文化を守りましよう。

2、お互いに顔とくらしが見える交流を大切にし、生産が成り立ち、後継者が育つ産直運動をめざしましよう。

3、お互いの組織の発展に貢献する産直運動をめざし、定期的な協議をおこないましよう。

4、産直運動を通して、「農政改革」・TPP参加反対、原発ゼロ、再生可能エネルギー普及のとりくみを広げ、食料主権、大災害復興、温暖化防止、みんなが輝く持続可能な循環型の地域社会をめざしましよう。原発事故による生産基盤と食の安全・安心の回復のため、国、電力会社の責任を果たさせましよう。

特別決議**沖縄県知事選での翁長雄志おながたけしさんの勝利で、
新基地建設中止、安倍政権ノックアウト！**

辺野古新基地建設問題を最大の争点に、沖縄県知事選挙が11月16日投票（10月31日告示）でたたかわれます。沖縄と日本の行方を左右する歴史的たたかいです。

安倍政権は、集団的自衛権行使容認の閣議決定をしたその日、新基地建設の工事を開始し、警察力を動員して海底ボーリング調査を強行してきました。

この暴挙に、「基地はいらぬ」と怒りの行動は連日続けられ、8割を超える県民が建設中止を求めています。9月7日の名護市議会議員選挙では、新基地反対を貫き大差で1月に再選された稲嶺市長を支える議員が、過半数の議席を獲得しました。

41全市町村長・議会議長、県議会代表らが「普天間基地の閉鎖・撤去、辺野古新基地移設断念」「オスプレイの配備撤回」を安倍首相に求めた「建白書」の立場こそ、「オール沖縄」の声です。この実現をかけて、翁長雄志さんを新知事にと保守・革新など立場を超えて島ぐるみのたたかいになっています。

新基地反対の知事誕生は、大暴走する安倍政権と米政府に大打撃を与えるものとなるでしょう。

う。

新婦人沖縄県本部は、名護市議選に続き、「県・国のあり方を変えるチャンス」と行動をつよめています。沖縄のたたかいに連帯し、翁長さんの勝利を必ずかちとり、新基地建設を中止させ、安倍政権をノックアウトする劇的な結果をつくりだすために、全国が力をつくしてがんばりましょう。

2014年9月21日

新日本婦人の会第162回中央委員会

特別決議

暮らしと平和をこわす消費税率10%への増税を中止させましょう！

「何もかも税率以上に上がった」「暮らしでいけない」——安倍政権による消費税率8%の強行は、削るところがないほど家計の力を奪っています。非正規雇用が増え、賃金が抑えられ、年金は連続削減で収入は減らされているのに、アベノミクスの円安政策と増税で、あらゆる物価が高騰しています。「社会保障のため」どころか、医療も介護も後退と負担増ばかりです。

政府は「落ち込みは想定内」といいますが、4～6月期の国内総生産（GDP）の個人消費は年率換算で19・5%減、1997年の消費税増税時を超え、戦後最大級の落ち込みです。それでも政府は、来年10月からの税率10%への増税を「規定どおり」強行する姿勢で、年内にもその判断を行なうとしています。

いっそうの増税は、家計や中小業者をさらに苦しめ、被災地の復興を妨げ、日本経済を取り返しのつかない事態へ追い込むものです。大企業への法人税減税と「戦争する国」づくりの戦費調達、巨大開発などの財源のための増税、憲法が保障する生存権を奪う増税を、けっして許すわけにはいきません。

どの世論調査でも、10%への引き上げ反対が圧倒的多数です。消費税法の「経済状況の判断で、増税停止を含め措置を講ずる」とした附則第18条にもとづき、政府は消費税増税を中止するべきです。

新婦人の「私は言いたいアクション」で暮らしの実態を発信しながら、「増税中止！ イエローキャンペーン」で、幅ひろい人びとと共同し、10%への増税を必ず断念させましょう。

2014年9月21日

新日本婦人の会第162回中央委員会

討論のまとめ

事務局長 米山 淳子

第162回中央委員会の出席は、中央委員115人中106人、2日目110人、今回は中央委員1人の県は複数で参加しています。議案全体は、「コンパクトで具体的な提案」と歓迎され、討論では53人が発言。どの発言も、安倍政権の暴走で平和も暮らしも脅かされるなか、情勢を機敏に受けとめ、各地で明るく元気に知恵と工夫をこらしながら、外へ外へと行動する新婦人の姿が生きいきと語られ、議案を深め、豊かにするものでした。

平和でも多彩な要求でも機敏に行動

討論の特徴の一つは、情勢を学びながら、各分野からの発信&行動が、まわりの人たちを励まし、新婦人自身も元気になっていることです。

「戦争する国」づくりを許さないと、秘密保護法や集団的自衛権などの問題を、紙芝居やジャンボリーフ、新チラシを活用し学習や街頭での宣伝、意見広告などの多彩なとりくみが報告されました。オスプレイ訓練・配備の動きに、各地で反対運動を広げ、沖縄・名護では、新基地建设反対ノーマスをかける市長与党が過半数を獲得、11月16日投票の知事選挙では、保守・革新をこえ、沖縄と全国の力で必ず勝利をと心ひとつになりました。

自衛隊の勧誘も急速に強まり、市政だよりに募集広告、回覧板、高校門前で教育委員会名入りのチラシ配りなど各地の動きや、体験学習への抗議行動なども報告されました。9条を詠ん

だ俳句の公民館だより掲載拒否、原爆パネル展での原展览展示拒否など行政の自主規制や、公民館つぶしの動きなどにも機敏に行動しています。

来年の被爆70年、NPT再検討会議に向け、新婦人200万国際署名目標を達成しようと、意欲的なとりくみも、班から、全会員によびかけて、クイズでの学習、被爆体験を聞く会、フェスタ、しんぶん増やしと結んだ1・5・1などのチャレンジ運動、リレー宣伝などダイナミックなとりくみ、申し入れ活動も市役所や保育所をはじめ、自治会長、開業医、神社、お寺、喫茶店など共同を広げているようすも発言されました。

広島土砂災害の現地から被災者支援の活動や今後の防災対策をと防災カフェ開催、原発再稼働させないとの各地の集会や定期的な抗議行動、議案で提起された「産直運動のあらたな共同目標」(案)も歓迎され、農業体験やカーニバルなどの楽しい企画、「戦争させ米、行かせ米」と日本の食と農業を守る多彩なとりくみも。全国一斉学力テストに「県の順位をあげるために、行事もなくして過去問題ばかりやらせている」との告発や結果を公表しないでとの教育委員会との懇談、学校給食を無料にとの共同行動の報告。日本軍「慰安婦」問題の解決へ、韓国ツアーや学習会、ブラック度チェックや労働法制などの学習や励ましあいながら活動する働く女性のとりくみ、「私の要求」を出しあってとりくまれた県知事選挙、班や小組で消費税、国保、年金などの学習やおしゃべりしながら、実態告発の運動につなげているなど、各分野の積極的なとりくみとともに、どの活動のなかでも仲間を迎えていることが共通に語られました。

若い世代の発想、発信が会の活気に

二つめは、ベテランと並走しながら、若い世代の発想・発信を生かした楽しくゆたかなとり

くみが、会の活気になっていることです。各地でチームづくりもすすみ、ニュースも発信。若い世代が集まっておしゃべりし交流を深め、自身の切実な要求から、学校へのエアコン設置、中学校給食、学校ウォッチングなどの運動へ。公民館調理室への冷蔵庫設置、図書館へのベビーカー設置など身近な要求を実現させ、とくに子どもの医療費無料の運動は、署名を積み上げ拡充を迫っています。

学ぶ活動も多彩です。熊丸講座や赤ちゃん小組サポーター講座、あゆみDVDやクイズなども活用し新婦人プチ講座や同世代が語るミニ講座など新婦人を学んで体感するとりくみ、また平和の問題でも、憲法や集团的自衛権の学習会、憲法ラーニングやカフェなどに参加するなかで、「戦争は絶対だめ」とわが身に引き寄せ、宣伝行動にも参加。原水爆禁止世界大会やニューヨーク行動への参加も広がっている力強い発言もありました。

班から行動、仲間づくりで年内現勢突破を！

三つめは、議案4章の「今年、どの県・支部・班も第26回全国大会時現勢を突破し、必ず前進を」の提起が正面から受け止められ、活発に討論されたことです。

〈どの班も生きいき大きな班へ 5つのポイント〉で話し合い、「運動も仲間づくりもできる班に」「増やして減らない班に」「2020年までにこんな班になりたい」「私の班のステツプアップ」など、できるところから一歩ずつ班の前進への努力が各地から。とりわけ、しんぶんタイムを大事に、読んでおしゃべり、紙面の魅力を語ってみんなで増やそう、愛読者が読者を増やすなど、気軽にしんぶんの独自増やしにとりくんでいる経験、小組とは別に新婦人の活動を話し合う班会を開くことの大事さも語られました。要求運動のなかで、また働いている会

員を中心に新しい班もできたとの報告もありました。

委員会の努力にも学びありました。委員会講座の内容を加えた新婦人学校を全支部で開こうと、ベテランと若い世代コンビで支部に向き、歴史と仲間づくり、組織のなりたちなどの基本をみんなで学んだこと、組織調査の結果をふまえた支部・班によりそった援助などが前進の力になっていることも発言されました。

この秋、「平和の仲間づくりをみんなで」と、新チラシや署名、宣伝紙などを入れた「ノックアウト袋」「ごきげんよう、安倍さんさようなら袋」などを全会員に届け、行動をよびかけている経験が報告されました。援助金も歓迎され、班会の開催やチラシ、合同体験会、臨時専従など仲間づくり推進のために活用されています。すでに目標と計画にもとづいて、仲間づくりビッグデーや大量チラシ、小組づくり、体験会開催など節をもうけたとりくみもすすんでいます。

中央委員会後、すぐに県・支部で常任委員会、県・支部委員会を開き、162中委決定を正面から討論し、具体化、実践に足をふみだし、運動も仲間もみんなだと、必ず前進をかちとりましょう。



**新日本婦人の会
第162回中央委員会決定**

2014年10月8日発行

発行：新日本婦人の会

〒112-0002 東京都文京区小石川5-10-20

TEL 03-3814-9141 FAX 03-3814-9441

頒価：80円



新日本婦人の会
第162回中央委員会決定
2014年10月8日発行
頒価 80円